



2026年5月26日

各 位

会 社 名 株式会社 朝日ラバー
代表者の役職名 代表取締役社長 渡邊 陽一郎
(東証スタンダード市場 コード番号 5162)
問 い 合 わ せ 先 執行役員管理本部長 久保田 敬之
T E L 048-650-6051

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対策について (更新)

当社は、東京証券取引所の要請に基づく「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、当社の現状分析、ならびに新たに始動した「第15次中期経営計画」における収益性改善方針を踏まえて更新し、キャピタルアロケーション（資金配分）計画を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 現状の分析と認識すべき課題

当社はこれまでも資本コストを意識した経営の定着を図ってまいりましたが、直近の業績動向において株価純資産倍率（PBR）は0.8倍、自己資本利益率（ROE）は3.2%にとどまっており、依然としてPBR1倍割れの状況が継続しております。

また、投下資本利益率（ROIC）についても、株主・投資家の皆様が期待されるリターンを十分に創出できているとは言えず、収益性の抜本的な改善が最重要課題であると認識しております。

この低収益となった背景には、当社の収益構造における以下の課題が存在します。

①特定市場への高い依存度と環境変化への脆弱性

全社売上高の50%超を自動車市場向け製品が占めており、かつOEM（相手先ブランド生産）比率が高いため、日系自動車メーカーの生産体制見直しやEVシフトの加速、地政学リスクなどの外部環境の変化による打撃を直接かつ甚大に受けやすい脆弱性がありました。

②主力の「ASA COLOR LED」の成長鈍化

創業以来の収益源であった自動車内装照明向けの受注が大きく減少し、全社の利益率を押し下げる要因となりました。

③利益圧迫と拡張性の課題

新規案件や開発への戦略的先行投資に伴い固定費が上昇したこと、および自前主義の考え方が根強く事業の拡張性が低かったことが、全社的な収益性の伸び悩みにつながってまいりました。

以上の分析から、当社が持続的な成長を実現するためには、これまで培った「頼りにされる実現力」を確実な収益力へと直結させ、過度な自動車市場への依存を改善するとともに、高付加価値な開発型製造（ODM）へと完全に進化する構造転換が必要であると認識しております。

2. 資本コストおよび資本収益性の指標に対する考え方

当社の企業価値成長は、「事業そのものの成長によって実質的な利益を稼ぎ出すこと」を主軸としております。そのゴールと進捗状況を適正に評価する指標として、当社では資本コスト指標に「加重平均資本コスト (WACC)」、資本収益性指標に「投下資本利益率 (ROIC)」を採用しております。

①資本コスト (WACC) の基準

算定時期による一時的な不確実性を排除し、中長期的な視点で経営判断を行うため、基準値を4%に固定としております。(試算ベースとなる株主資本コストは7%で設定)

②中期経営計画における目標値

2026年5月14日に開示いたしました第15次中期経営計画の定量目標として、連結売上高100億円、連結営業利益率5%を達成した場合、ROICは4.3%を想定しており、基準とする資本コストを上回る計画 (ROIC>WACC) としております。

なお、時価ベースの自己資本比率および近年の金利の動向を踏まえた将来のWACCは上昇傾向にあると認識しており、状況を踏まえて再設定を検討してまいります。

第15次中期経営計画では、当社が社会に貢献できる市場を「ウェルネス領域」と定め、当社の競争力の源泉である3つのコア技術(色と光のコントロール技術、素材変性技術、表面改質・マイクロ加工技術)をこの領域へ集中的に複合・融合させてまいります。また、OEMからODM(設計から製造までを一貫して受託メーカー側が行う)へと変革し、外部アライアンスの積極活用も進めて、投資効率の向上や固定費の最適化、および開発投資の実効性を適宜評価・是正する仕組みを徹底することで、計画目標からさらなる収益性向上を図り、企業価値を高めて株主の皆様のご期待に沿えるよう、強固な決意で臨んでまいります。

3. 財務戦略とキャピタルアロケーション(資金配分)計画

当社は今後5年間、医療領域等への成長投資(35~50億円)と将来の資本政策を見据えた増配等の株主還元(5~6億円)を両輪として進めてまいります。そのための原資として、健全な枠内での自己資本比率の調整、政策保有株式の順次売却(2~3億円)による手元資金の確保と、高付加価値ビジネスへの転換による営業キャッシュフロー(40~50億円)の創出を並行して推進します。これにより、健全な財務体質と安定した返済能力を維持いたします。

持続的な成長投資の実行、財務健全性の維持、および株主還元の強化を高い次元でバランスさせるため、今後5年間のキャピタルアロケーションに基づき、最適配分を進めてまいります。

※第15次中期経営計画の説明資料は、当社ホームページのIRライブラリーの決算関連資料のその他補足資料「2026年3月期」に掲載しています。以下のリンク先からご覧ください。

<https://www.asahi-rubber.co.jp/ir/library/financialresult#other>

以上